



米

刈取り後の 水田管理



静浜営農経済センター
梶原 剛

刈り取りも終盤になってきました。作業終了後は、機械の整備や点検、畦畔やほ場整備を進めるとともに、次年度に向けて管理を行ってください。また、収穫した米は適正に保管し、年間を通じておいしい米を食べましょう。

《米の保存は専用の保管庫で》

- 保管は、精米よりも玄米の方が良い
 - 玄米水分は14～15%程度が良い
 - 気温・湿度の差が少ない環境が良い
- 高温多湿と直射日光を避け、できるだけ涼しいところで（15℃程度）に保存します。玄米でも気温が20℃を超えると途端に味が落ちます。特に、梅雨や高温多湿の時期には、水分の多い米は急速に品質が低下するので、米の品質管理には気をつけましょう。
- ※米の保管には「菜庫」をおすすめします!!

《種子更新をしてください！注文忘れの方は、今すぐに!!》

水稻の種子を長年にわたり自家採取し続けていると、品種特性の劣化や変異、混種により生育にはらつきが生じてくる恐れがあります。そのため、できるだけ採取ほ場の証明書付の購入種子を利用して種子更新をしましょう。購入種子は、厳密な審査のうえ生産されているので、純粋性がより高くなっています。お申込は、最寄りの営農経済センターへどうぞ。

《田んぼの土を分析しよう》

「土づくり」は、根を取り巻く環境を整えることです。まず自分の田んぼの土の状態を知りましょう。土は収穫後の耕した状態で採取します。種子・土壌分析の相談は、最寄りの営農経済センターまでどうぞ。

《土壌改良資材を積極的に施用しましょう》

ケイ酸資材施用の効果として、登熟が向上

し粒太りが良くなります。また、登根を促進し、茎や葉を丈夫にするので、倒伏や病害虫に強くなります。ケイ酸加里はく溶性のため、必要な分だけ吸収されます。ケイ酸と加里を補い、次年度も病気に強く丈夫な稲を育てましょう。

【ケイ酸加里「レミア34」】40～60kg/10a

《刈取後に雑草対策をしましょう》

用水路や休耕田の「ヨシ」・「セイタカアワダチソウ」等の大型雑草がカメムシ等の害虫の越冬場所になります。また畦畔際には、ツル系で水田に侵入し、稲の生育を妨げる「キシユウスズメノヒエ」が多く見られますので防除しましょう。除草剤の散布時期は、雑草が10cm位に再生してからの方が効果的で、11月上旬までが適期となります。ラウンドアップマックスロードまたは、タッチダウン-Qを100倍で散布しましょう。ツユクサ等は50倍で散布してください。